

さやえんどうの夏まき栽培

◆ 施肥

酸性に弱い作物なので、石灰を散布し、耕うんする。基肥に窒素が多いと草ボケし減収となる。リン酸は耐寒性を増し、分枝を多くするので、基肥重点に施す。カリは耐病性耐寒性を増す。

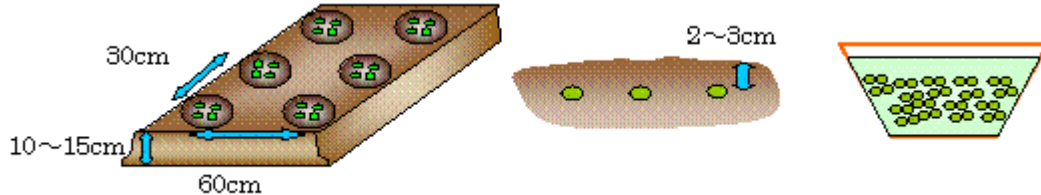
施肥例（1 a 当たり）

肥料名	基肥	追肥
堆肥	1 5 0 kg	
苦土石灰	1 5 kg	
BMようりん	1 0 kg	
豆化成550号	1 kg	
磷硝安加理S604		1 0 kg

◆ 播種

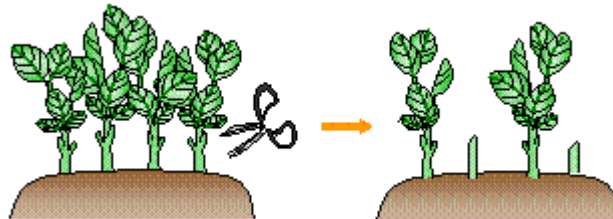
株間30～40cm、条間60cm、覆土2～3cmとし、1ヶ所に4～5粒まきます。種子は、一晩水につけて吸収させると発芽が揃います。

移植の場合は、1ポットに2粒ずつまき、本葉4～5枚の苗を定植する。



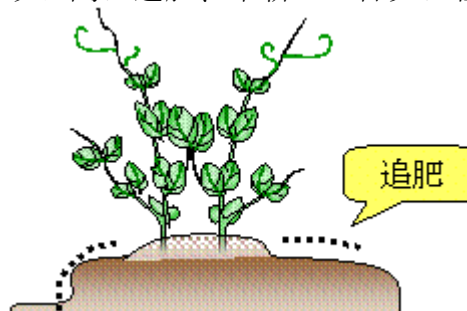
◆ 間引き

本葉2～3枚時に間引いて2本立てにします。間引く株は株元からはさみで切り取ります。



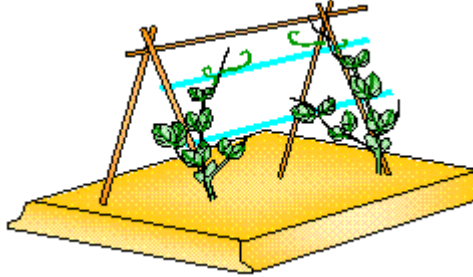
◆ 追肥

支柱を立てる前にうね間に追肥、中耕して株元に軽く土を寄せます。



◆支柱立て

つるが伸びだしたら遅れないように支柱を立てます。分枝の多い枝を挿したりネットを利用する方法もあります。



◆病虫害防除

うどんこ病 …主に成熟期近くになって発生する。葉・茎・莢に発生する。はじめ白い粉状の小さい病斑ができ、しだいに広がってうどんこを撒きちらしたようになる。(トップジンM水和剤・アミスター20フロアブル)

ハモグリバエ…葉の中を小さな虫が食い進む。(マラソン乳剤)

◆収穫

さやえんどうは、外から子実の形がはっきりわからないうちに収穫する。スナックエンドウは若い莢も収穫できるが、実が大きくなって莢の断面が円形になるくらいふくらんだ頃が収穫適期である。

